01 / サービスの使い方

美容サロンのためのお店AI

デザインの好みや前回の相談が、次の接客で自然に活きる状態へ。ネイル・アイラッシュ等のサロンで、顧客メモと連絡の下書きをどう使うかを具体的にご紹介します。

このような仕事を整理したい方へ

・前回選んだデザインや、苦手な色をスタッフ間で共有しきれていない。
・次回予約のない方を探し、声かけするまで手が回らない。
・SNSで紹介したいデザインはあるが、説明文の作成が後回しになる。

使う材料

来店日、施術・デザイン、好み、次回の希望、連絡可否。まずは店が確認した事実を残すところから始めます。

基本の流れ

記録を整理 → AIの下書きを確認 → お店で編集・承認 → 必要な相手・媒体へご案内。AIが書いた文章にも確認は必要です。下書きを作ったことと、外部へ配信されたことは区別して確認します。

この資料で分かること

2〜3ページ：具体的な2つの使用例と文面の例
4ページ：営業中・閉店前・週次の使い方
5ページ：導入前の準備と最初の運用手順
6ページ：よくある質問とご相談前の確認

実在店舗の導入事例・成果実績ではありません。利用できる画面や配信先は、業種・設定・連携先の状況で異なります。

02 / 使用例 1

好みに沿った、押しつけないご案内

いつも通ってくださるお客様へ、次回のデザイン相談を案内したい場面です。カルテの記録を見て、案内が役立つかどうかを先に考えます。

お店が用意する記録

架空の例：複数回の来店日が記録されている方。会話メモは『仕事柄、落ち着いた色がよい』『次回は少し雰囲気を変えたい』。本人のLINEとの紐づけ、連絡不要の指定を確認します。

アプリで進めること

来店間隔と記録を確認し、声かけ候補の理由と下書きを読みます。『全員に4週間で送る』などの一律の判断ではなく、実際の来店間隔を判断材料にします。

文面のイメージ（架空の例です）

前回、次は少し雰囲気を変えてみたいとお話しされていましたね。お仕事でも使いやすい落ち着いた色味で、ご希望に合わせて一緒に考えられればと思います。

送る前に、担当者が確認

過去の会話が現在も有効か、連絡する必要があるかをスタッフが確認します。体調など配慮の必要な話を、案内文へ機械的に入れないようにします。

この使い方で整理できること

前回の話を探す作業と文面の作成をつなぎ、最後はお店の判断でご案内できます。送らない判断も選べます。

03 / 使用例 2

新しいデザインを、伝わる紹介文に

店内で撮影したデザイン写真を使って、SNSで紹介したい場面です。写真の特徴と、店が実際に提供できることを整理してから下書きを作ります。

お店が用意する記録

例：『ベージュ系』『装飾は控えめ』『色の相談が可能』などの確認済み情報。写真は掲載許可の取れた素材を用意します。所要時間や料金を書く場合は最新の案内を確認します。

アプリで進めること

店舗の資料・メモから紹介文の下書きを作り、媒体に合わせて整えます。写真の掲載範囲や、実際の予約条件までAIの推測だけで埋めることはしません。

文面のイメージ（架空の例です）

控えめな色味でも、少し気分を変えたい方へ。ベージュをベースに、装飾を抑えたデザインをご紹介します。普段のお洋服やお仕事に合わせて、色味をご相談ください。

送る前に、担当者が確認

『長持ちする』『傷まない』など、根拠を確認していない効果を足していないかを見ます。お客様の顔や名前、個人の話が写真・本文に含まれていないかも確認します。

この使い方で整理できること

見た目の紹介だけで終わらず、どのような好みの方へ案内するかが分かる文章に整えられます。実際の公開方法はSNS接続の状況に合わせて選びます。

04 / 日々の運用

いつ、誰が確認するかを決める

機能を一度に増やすより、記録・確認・発信の担当を決めると、日々の仕事に組み込みやすくなります。下記は運用の提案であり、自動実行の設定ではありません。

1. 営業前

今日の接客に必要な好み・前回メモを確認する。

2. 施術後

次回の相談に使えることを短くカルテへ記録する。

3. 連絡時

来店候補と文面を確認し、店らしい言い回しへ直す。

4. 週1回

投稿の下書きと、使える写真・メニュー情報を更新する。

お店とAIの役割

AIは情報を材料に候補や文面を用意します。お店は事実、対象者、最新の状況、言い回しを確認します。迷うときはその場で送らず、担当者へ引き継ぎます。

振り返りで見ること

作った下書きのうち使えたもの、修正が多かったもの、送らなかった理由を確認します。SNSの反応や来店記録も見ますが、売上の変化を投稿だけの成果と断定しません。追えない数字は、推測で埋めず未確認として扱います。

05 / 導入の準備

まず一つの仕事から始める

以下を用意すると、現在の運用を残しながら始め方を相談できます。データをすべて移すことや、既存の仕組みをやめることを前提にしません。

準備 1

お客様別の来店記録と、施術・好みのメモを整理します。記録のない内容を推測で補わないようにします。

準備 2

LINE公式アカウントと顧客の紐づけ、連絡不要の方の管理方法を確認します。

準備 3

写真の掲載可否、メニューの最新情報、投稿前の確認担当者を決めます。

準備 4

予約表や他のアプリからの自動同期は前提にせず、記録の取り込み・更新の手順を確認します。

開始までの進め方

① いまの仕事と使用中のシステムを確認
② 使う記録・取り込み方法・接続条件を確認
③ サンプルを読み、お店の事実と合うか確認
④ 確認担当と日々の手順を決めて運用開始

最初の運用で確認すること

まず少数の記録で日付・名前・商品情報などを見直し、下書きが作れることを確認します。実配信の前に、宛先と配信状態を確認してください。デモやサンドボックスで動いたことだけを、接続完了の証拠にはしません。

06 / よくある質問

ご相談前に確認したいこと

店の雰囲気に合う文章にできますか？

下書きは送信前に編集できます。丁寧さ、文章の長さ、絵文字の量など、使ってみながら担当者が整える運用です。最初から毎回そのまま使えると保証するものではありません。

次回予約がある方にも声をかけますか？

実際の予約状況を確認して判断します。来店候補に出たことだけを理由に送らず、不要なら保留・送らないを選んでください。

SNSへ勝手に公開されますか？

このガイドの運用は、下書きを人が確認・承認してから配信する流れです。実配信できる媒体は接続・審査状況によって異なります。

料金と連携について

料金・契約条件は公式サイトの最新の案内と、お申し込み前の説明をご確認ください。LINEの配信通数や、外部SNS側の接続・利用条件も確認します。資料請求だけで契約や課金は発生しません。

ご相談のときに教えてください

お店の業種／手間がかかっている仕事／現在使っている予約・POS・LINE等／残している記録／主な確認担当者。最初はお客様の個人情報を送らず、形式や運用の概要だけで構いません。

公式サイトで使い方・料金を確認する → omise-ai.com

発行：株式会社お店ＡＩ
所在地：〒899-5103 鹿児島県霧島市隼人町小浜28
連絡先：info@omise-ai.com